

第1章 総則

1 子どもの貧困対策に関する国の動き

1-1 社会的な現状・背景

- 子どもの貧困率（18歳未満の子どもで15.7%（2010年OECD加盟34カ国中25位））
- ひとり親世帯での貧困率50.8%（2010年OECD加盟34カ国中33位）
- 生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率89.9%（全体98.4%）
- 世代を超えた「貧困の連鎖」

1-2 法律等の動向

- 子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成25年法律第64号）
- 子どもの貧困対策に関する大綱（平成26年8月）

1-3 大綱に基づく基本方針

- ① 貧困の世代間連鎖解消と積極的な人材育成
- ② 第一に子どもの視点を置いて切れ目の施策の実施
- ③ 子どもの貧困の実態を踏まえて対策を推進
- ④ 子どもの貧困に関する指標を設定
- ⑤ 「学校」を子どもの貧困対策のプラットフォームと位置付けた総合的対策と教育費負担の軽減を図る教育支援
- ⑥ 貧困の状況が社会的孤立を深刻化させないような生活支援
- ⑦ 家庭で家族が接する時間確保や保護者の働く姿を示すなどの教育的意義に配慮した保護者への就労支援
- ⑧ 世帯の生活の下支えする経済的支援
- ⑨ 子どもの貧困対策を官民の連携で国民運動として展開
- ⑩ 当面5年間の重点施策として継続的な取り組み

2 本市の計画策定の背景と趣旨

2-1 子どもを取り巻く現状

- 生活保護家庭に「保護の連鎖」が生じている
- 市全体では子どもの自己肯定感は全国と比べて高い。

2-2 これまでの子どもの貧困対策

- 平成21年度より「社会的居場所づくり支援事業」を実施
- 各家庭の相談対応を担う就学生活支援員を市の嘱託職員として配置
- 新入学児童・生徒のいる家庭への支援
- 高校進学支援
- 中卒者・高校中退者の進路相談及び就労支援への引継ぎ
- 学習支援 など

2-3 計画策定の趣旨

- 子どもの将来がその生まれ育った環境にされないよう、また貧困が世代を超えて連鎖することがないように、生活、教育、就労等の分野を総合的に支援し、貧困の状況にある子どもが健やかに育成する環境を整備する

3 計画の位置づけ

- 宇部市総合計画
- 子育てプラン・うべ
- 宇部市教育振興基本計画 など

4 計画の期間と対象

- 平成29～33年度
- 本計画の対象は、原則として妊娠時から18歳までの子どもとその家庭とする。

5 計画の進行管理

- 計画期間中においてもその評価・検証を行いつつ、より効果的で効果的な施策を総合的に推進していく

第2章 本市の子どもの健康・生活の状況

1 本市の子どもとその家庭の状況

- ① 生活保護受給者の状況（10年）
 - 生活保護受給者数の推移
- ② 児童扶養手当受給世帯数の状況（10年）
 - 児童扶養手当の受給世帯数の推移
- ③ 就学援助認定者数の状況（小・中10年）
 - 就学援助認定者数・認定率の推移
- ④ 家庭からみた生活状況（問25、26、27）
- ⑤ 子どもからみた生活状況（問19）

2 子どもの貧困の設定『相対的貧困＝困難な状況にある家庭』

- 要素1：家庭からみた生活の困難：**急な出費で家計のやりくりができない経験（問24—親）、債務が返済できない経験（問25—親）、ライフラインが止められた経験（問26—親）が1つ以上あると回答した世帯
- 要素2：子どもからみた生活の困難：**所有物に関する14項目（問19—子）に関して、経済的な理由で与えられていないとする項目が7つ（半分）以上あると回答した世帯（※制度利用世帯で与えられていないとする項目が5.5個から増加）
- 要素3：世帯収入からみた困難：**公的年金や社会保障給付を含めた世帯の総収入額が一定水準135.3万円（平成26年度国民生活基礎調査より）未満とみなされる世帯、または制度利用世帯（問27—親）

3 分析の視点

- ① 「困難な状況にある家庭」の分析
- ② 子ども健康・生活と「困難な状況にある家庭」との直接的な関連分析
- ③ 子ども健康・生活と間接的な因子の関連分析

4 アンケート及びヒアリング調査からみられる状況（生活困難層と非生活困難層との比較分析）

① 保護者の状況に関する分析

- 世帯構成（問2）
- 就業の状況（就業の有無・就業形態・時間帯）（問18）
- 健康状態・生活習慣（問5）
- 相談相手・頼れる人の有無（問22）
- 社会とのつながり（問16）
- 子どもの進学に関する希望（問8コ）
- 子育てについて（問11（5）（6））
- 現在の悩みや不安（問21）
- 必要な支援（問28）

② 子ども健康・生活に関する分析

- 学力・学習に関する状況（問12、13）
- 食習慣（問3、問4）
- 進学希望（問20）
- 人間関係（問22（8））
- 自己肯定感（問22（1、2、3、7、8））
- 自己無力感（問22（14））

③ 子ども健康・生活の状況に関する分析

- 不安感と家族構成（問21×問2）
- 子どもの子育て環境と親の自己肯定感、社会的つながり（問11（5）×問29（2）、問29（9））
- 子どもの自己肯定感 家庭の安心感（問22（1、2、3、7、8）×問10（1））
- 困った時の相談相手（問22（2）×問10（7）、（8））
- 子どもの進学意向 親の進学意向（問20×問8）
- 勉強の理解度（問20×問13）
- 親の子どもの進学意向 経済状況（問8（コ）×問19）
- 親の学歴（問8（コ）×問12）

① 生活困難の状況について

- 経済的困難
- 就業の困難（非正規雇用・低賃金・失業など）

② 保護者の日常生活について

- 家事・育児・仕事の両立の困難
- 家庭環境の問題
- 相談相手・頼れる相手の不在、情報の不足

③ 子ども健康・生活の状況に関する分析

- 不十分な学習環境
- 学力・学習意欲の低下
- 進学に関する希望格差

④ 子ども健康・生活の状況に関する分析

- 生活習慣の乱れ
- 健康状態の悪化

⑤ 子ども健康・生活の状況に関する分析

- 子どもへのケアの不足
- 子どもの孤立化
- 自己肯定感の低下
- 自己無力感の増加

「子どもの健やかな育ちの保障」と「貧困の世代間連鎖解消」